

「B-plus」に掲載されました！

仕事を楽しむためのWEBマガジン



HIROKOU工法で 世界の型枠工事を独占！

株式会社HIROKOU

次長 廣重昭次

経営者インタビュー

EXECUTIVE INTERVIEW

狩野 大阪府東大阪市を拠点に型枠工事を手がける株式会社HIROKOU（ヒロコウ）さんにお邪魔しています。お話をうかがうのは次長の廣重昭次さんと係長の光昭さん。お二人はご兄弟で、取締役をお父様の昭彦さんが務めていらっしゃるとう聞きしています。さっそく事業内容の特徴を教えてくださいませんか。

廣重（昭） 私たちは、高層ビルや商業施設などの基礎工事の一つである型枠工事を担当する会社です。大きな特徴はその工法にあります。弊社オリジナルの特殊型枠技術、HIROKOU工法、キーストン型枠を導入しているんですよ。通常の型枠工事は、現場で木製の型枠を組み立ててコンクリートを打ち、最後に土を埋め戻す手順が必要となります。しかし、これには重い型枠を扱うことや埋め戻しの作業に時間とコストがかかるなど、さまざまなデメリットがあるんです。



インタビューー 狩野忠輔（野球解説者）

廣重（光） 私たちが開発したHIROKOU工法ならこうしたデメリットがなくなります。まず、型枠の素材を薄い鉄板にしたことで軽量化に成功しています。ですから現場での持ち運びが人力で可能となり、足場を組む必要がなくなりました。さらに弊社のキーストン型枠は溶接で組み立てるので、くぎで打つ木製の型枠より圧倒的に早く工事が進むんですよ。

狩野 具体的には、スピードにどれくらいの差が出るのでしょうか。



廣重光昭係長（右）

ね！

廣重（光） それだけではありませんよ。HIROKOU工法は、足場を組む必要がなくなるだけでなく、現場の段差がハッキリ目に見えるので安全性も高まるんです。

廣重（昭） 通常の型枠工事で3日かかる現場でも、HIROKOU工法なら1日で終わるイメージでしょうか。HIROKOU工法は型枠を土に埋めコンクリートを流したらそのまま埋め戻しができます。つまり、型枠を解体する必要がないので重機が不要となり、残土の処分も最小限となるためコストも工期の面でも大きなメリットがあるんですよ。

狩野 重機も足場も不要で工期が短くコストまで安くなるとは、これまでにない、画期的な工法ですね！

HIROKOU工法で 世界の型枠工事を独占！



狩野 工事現場にとって安全は何より大切なものですね。安く、早く、安全に行われるHIROKOU工法の素晴らしさがよくわかりました。今までにない工法で勝負されている部分は強みになっているでしょうね。

廣重（昭） そうですね。近い工法を採用している会社さんもありますが、ライバルというほど脅威には感じていません。まさにHIROKOU工法は唯一無二の存在だと自負しています。弊社はもともと二次下請けの仕事が中心でした。それが昨年の2020年からは、日本を代表するゼネコンさん2社と直接お取引ができるようになりました。

狩野 それはすごい！ 御社は社員20名の会社とお聞きしています。その規模で大手ゼネコンと直に契約できるのは驚きました。それこそHIROKOU工法の素晴らしさをゼネコンさんが認めてくださった証なのでしょうね。今後の躍進が本当に楽しみです。

廣重（光） ありがとうございます。ゼネコンさんがHIROKOU工法を認めてくださったのは嬉しい限りです。今後はますます「型枠工事といえばHIROKOU工法」という認識を広めていきたいですね。いずれは世界中の型枠工事を弊社が独占するつもりです。

廣重（昭） 私たちは父と男ばかりの兄弟5人の家族です。それが全員、弊社で働いているんですよ。現在は、若者が中心のスタッフたちと同じ釜の飯を食い、お互いに助け合いながら汗を流しているところです。今後も弊社のモットーである「人にやさしく」という気持ちを大事にしなが、**「困ったときはHIROKOUへ」**が当たり前の言葉になるよう精進し続けます。

狩野 若い力があふれているからこそ、ベテランの職人さんも負けずに切磋琢磨できる関係を築けるのでしょうか。ぜひ、型枠業界の先陣を切ってこのまま走り続けてください。応援しています！

